

ほんせんdigital	12月22日	国鉄労働組合 米原列車区班
	NO.73	発行責任者 業務部長

安全研修を受講して



安全考動館の資料の中に、ご遺族様対応された方の手記があります。その中の一文に、『最後にお聞きします。役員やご遺族様担当者に同行して、あなたは自らの取り組みをご遺族様に説明することができますか。この素朴な問いかけに、真正面から立ち向かい、答えてほしいと思います。』

この一文に私は考えさせられました。

コロナまでは様々な施策に対して要求が前進してきましたが、コロナ以降は逆戻り。今年から**余裕のないダイヤ設定**になり、複数の区所で**要員が逼迫**し、まともに年休を取れない状況が続いているとのこと(労基法で決まっている5日程度しかとれない職場や、休日出勤の連発の職場もあり。超勤は多いが休みが欲しいとの悲痛な声が続出)。又、就業規則や労働協約にないような勤務の取扱いを強行(災害時の泊まり勤務で、アケ場面を自分の特休・年休で帰らせたり***労働協約が変更となり**今後は勤務途中でも障害休暇を適用することとなりました)、始終業や労働時間の違法的な変更(**指摘後是正あり**)など、**行き過ぎた上位下達**そのものではないでしょうか？事故を風化させ、事故前に戻しつつあるのではないかと感じますが、この会社の姿勢をご遺族様に説明できるのでしょうか？



来年の4/25で福知山線事故から20年を迎えます。絶対に事故前に戻さないように、事故前入社の方は事後後入社の方に当時の状況を伝えるべきですし、事故後入社の方はそういった状況だったことを学ぶべきではないでしょうか。

人口減少に伴う労働力不足等が予測されており、今後厳しい労働環境となるのは想像をしますが、だからと言ってあの福知山線事故を風化させてはいけません。

コロナ以降、**余裕のないダイヤ設定**、**厳しい要員需給状態**、**行き過ぎた上位下達**…。これらをご遺族様に説明をしたとき、ご遺族様のお気持ちの整理に役立てるのでしょうか？